感染症の登園基準

感染症の病気の場合、他の園児にうつる心配がなくなるまで登園停止になります。 登園には、別紙1~3の書面をご提出いただく必要があります。 お子さんの病後の状態や、他児への影響が心配される場合には、家庭保育をお願いすることがあります。

	病名	潜伏期間	感染可能期間	主な症状	登園基準	
インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症に関する報告(別紙1)をを提出ください。						
1	インフルエンザ	1~4日	感染後約10日	発熱、全身倦怠、筋肉痛、鼻カ タル、咽頭痛、咳	発症後5日を経過し、解熱後3日を経過 するまで	
2	新型コロナウイルス感染症	1~14日	発症後7~10日	鼻水や咳、発熱、のどの痛み、 筋肉痛や倦怠感など	発症した後5日を経過し、かつ、症状が 軽快した後1日を経過すること	
感染症治癒通知書(別紙2)をを提出ください。						
3	麻しん(はしか)	8~12日	発しん出現の前 後4~5日	発熱、咳、鼻水、結膜血、目やに、 口腔内、全身の発しん	解熱した後3日を経過するまで	
4	風しん(三日はしか)	16~18日	発しん出現の前 後7日間	発熱、全身の発しん、リンパ節 腫脹	発しんが消失するまで	
5	水痘(みずぼうそう)	14~16日	水泡発現前2~6 日	発熱、全身の発しん、水泡	すべての発しんが痂皮化するまで	
6	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	16~18日	症状を示す7日 前からその後9日	発熱、耳下腺の腫脹	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日間を経過し、かつ全身 状態が良好となるまで	
7	咽頭結膜熱(プール熱) ※アデノウイルスによる熱	2~14日	潜伏期後半~発 症後約5日間	の発赤、咳、鼻水、	解熱し、主要症状が消失した後2日を 経過するまで	
8	百日咳	7~10日	感染後約3週	息を吸う)	特有の咳が消失するまで、又は、5日間の適正な抗菌剤による治療が終了するまで	
9	結核				医師により感染の恐れがないと認めら れていること	
10	髄膜炎菌性髄膜炎	1~10日		発熱や全身倦怠感、吐き気や嘔 吐、頭痛、出血斑	症状により医師が感染の恐れがないと 認めるまで	
11	腸管出血性大腸菌感染症 (0-157、0-26、0-111等)	2~8日		下痢、激しい腹痛、頻回の水様便	症状が治まり、かつ抗菌薬による治療が終了し48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの	
12	急性出血性結膜炎	1~3日	発病後約4日	涙目、結膜充血、眼瞼浮腫	症状により医師が感染の恐れがないと 認めるまで	
13	流行性角結膜炎(はやり目)※アデノウイルスによる結膜炎	2~14日	発病後約2週間	目やに、涙目、結膜の充血と浮腫、 眼瞼の発赤と腫脹	症状により医師が感染の恐れがないと 認めるまで	
	登園届(別紙3)をを提出ください。					
14	溶蓮菌感染症	2~5日		発熱、咽頭痛、扁桃腺炎、苺 舌、リンパ節炎	適正な抗菌剤治療開始後24時間を経 て全身状態が良ければ登園可能	
15	マイコプラズマ肺炎	2~3週		咳、発熱、呼吸困難(重症の場合)、	急性期は出席停止、全身状態が良け れば登園可能	
16	手足口病	3~6日	水泡消滅まで		発熱や喉頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う 急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登園可	
17	伝染性紅班(りんご病)	4~14日	14~20日	顔面赤班とくに頬部の赤班性 発しん	発しん(りんご病)のみで全身状態が良ければ登園可能	
18	ウイルス性胃腸炎 (ノロウイルス・ロタウイルス他)	1~3日		発熱、腹痛、下痢、嘔吐	下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が 良ければ登園可能	
19	ヘルパンギーナ	3~6日		高熱、咽頭痛、咽頭に水疱	発熱や喉頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う 急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登園可	
20	RSウイルス感染症	4~6日		咳、発熱、鼻水	呼吸器症状が消失し、全身状態が良け れば登園可能	
21	帯状疱しん(ヘルペス)	2日~2週間	水疱を形成して いる間	痛みをともなう赤い斑点と水疱	すべての発しんが痂皮化してから	
22	突発性発しん	約10日			症状がほとんど消失し医師の許可がで れば	
23	とびひ	2~10日	水疱消滅まで	主として豆つぶ大の水疱自覚 症状あまりなし	他人への感染のおそれがないと医師が 認めたとき	
24	水いぼ	2~7週		球状のいぼ	他人への感染のおそれがないと医師が 認めたとき	
24	嘔吐•下痢		嘔吐・下痢が落 ち着くまでの間	嘔吐、下痢	感染のおそれがないと診断され、24時間以内に2回以上の嘔吐・下痢がないこと発熱がなく元気であること	